



新時代の農業人育成プロジェクト

2021年7月 第10号

■発行: 横須賀商工会議所
横須賀市平成町2-14-4 ☎046-823-0421
■編集: (株)タウンニュース社 横須賀編集室

■「産農人」とは農作物をつくるだけでなく、市場ニーズを理解し流通させることのできるマーケットセンスを持った新しい農業人を表す造語。横須賀商工会議所と地域の農家・加工業者・飲食店・メーカーが一丸となって、将来の農業を担う有用な人材の育成に取り組んでいます

産農人
3・4期生

次世代農業の主役たち

新時代の農業人に求められるのは、環境との調和を図りながら力強い農業経営を確立させること。現場実習を中心に、生産・加工・流通を広い視野で総合的に学んでいる3・4期生メンバーを紹介!



漠然とした農業への憧
れが参加理由という。
畑に足を踏み入れた瞬
間、土の匂いと感触に胸
が躍った。

その一方で、地味で細
かな作業の連続に加え、
体力的な厳しさを身を持つ
て体験。美味しさと安全
性を追求する農家の心意
にも触れ、仕事として
の農業を少しづつ意識し
始めたところだ。

「産農人」で自己探索
結城七菜香さん（2年）



教科書や机上で学ぶよ
りも、現場に飛び出して
畑作業に没頭していく
タイプ。2年目を迎えた
今もその思いは変わらな
いが、「生産→流通→販
売」に携わる新しい農業
のカタチを学ぶ意義を
「産農人」のプログラム
を通して理解した。これ
を自身の進路選択どう
結びつけるか、思案の1
年になる。

農業とどう向き合うか
飯島あゆみさん（3年）

4期生を引っ張るリーダー的
的存在。宮城県で米
づくりと花き栽培を行つ
ている祖父の跡を継ぐた
めに「産農人」で学んで
いる。昨年は加工品開発
でも能力を發揮。バター
ナツツかぼちゃを用いた
チーズケーキの試作品が
高い評価を得た。農業か
ら広がるビジネスの可能
性にも視野を広げ、将来
に役立てるつもりだ。

大沼侑太さん（3年）

農業に従事、決意新たに
佐藤あかりさん（2年）



「産農人」の活動をS
NSで発信している。タ
イトルは「JK（女子校
生）ファーマーズ」。自
分が見たものや感じたこ
と飾ることなく伝えてい
る。「投稿画像から農業
の楽しさや魅力を感じ
取ってもらえた」と弾
ける笑顔。県内の特産品
にも興味を持つており、
風土や伝統についての調
べも進めている。

インスタで「農業萌え」
須田萌愛さん（2年）

6次産業化を学ぶ目的
で「産農人」の門を叩いた。特に加工の分野に興
味があり、素材の特性を
いた総菜をスーパーで販
売する取り組みに刺激を
もらっている。将来は大
学に進学して農業と食を
深めたいという。

佐藤あかりさん（2年）

6次産業化に興味津々
三上隼馬さん（2年）



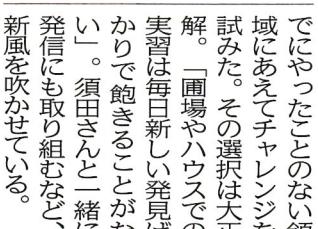
農業の楽しさを見つけ
出すことが参加動機だ。域にあってチャレンジを
試みた。その選択は大正
解。「圃場やハウスでの
実習は毎日新しい発見ばかりで飽きることがな
い」。須田さんと一緒に
発信にも取り組むなど、
新風を吹かせている。

畑に笑顔を振りまく
水野綺音さん（2年）

料理人を志し、素材に
ついての理解を深めよう
と参加を決めた。一方
で、作曲を中心とした音
楽活動にも精力的に取り
組んでおり、多忙な毎日
を過ごしている。「やり
たいことが多すぎて将来
の夢を絞り切れないのが
悩み」。畑作業からイン
スピレーションを得た
「産農人」のテーマソン
グづくりにも挑戦中だ。

三上隼馬さん（2年）

「農業×音楽」異能の人
カルドソガブリエルヘンリケ
ナチイビダトさん（2年）



北海道で米農家が手掛け
た新米の味に感動を覚え、
農業に興味が湧いた。「産農人」への参加
は入学前から決めていた。授業では知ることの
できない、農家のリアル
な仕事をぶりを知ることが目的だ。

横須賀商工会議所

産農人

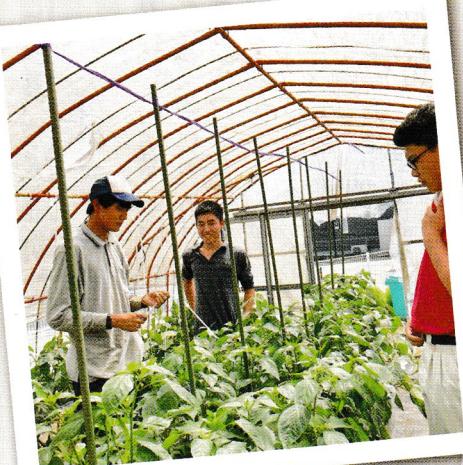
育成 プロジェクト

～新規就農～

非農家の2期生が就農！



2期生秋元琉椰さんが新規就農スタート！
昨年まで2期生として活躍した秋元さんが
農業生産法人ヨコスカアグリファミリーの
社員として新たなスタートを切りました。



産農人の生徒たちに教えている秋元さん



鈴也ファーム



横須賀セントラルキッチン



永島農園



すかなごっそへ納品も体験



じゃがいもの収穫

